



東京から鉄路で90分ほど。九十九里海岸に面した千葉県匝瑳(そうさ)市は起伏に富んだ田園地帯だ。サンショウウオがすむ豊かな里山に20人余りの都市住民が移住し、小さな共同体を形成している。

共同体を形成

愛知県出身の松原万里子(48)は当地に移り住み3年余り。30代で病で耳が聞こえなくなり保育士の仕事を失った。新たな居場所を探そうと、この場所にとどりついた。休耕田を耕しコマや大豆、野菜などを自給。古民家を月1万5000円で借り、修繕して住まう。庭先にはドラム缶の風

幸せ探し「半農半X」

里山へ移住暮らし慈しむ



農村で暮らし、若い移住者を支援する高坂勝さん(千葉県匝瑳市)

呂、居間にはまきストーブをしつらえた。

「自宅の古民家を不登校の子供たちの居場所にする。農作業を体験しても約12万円。松原は失職したが相手にゆっくり話してもらえば口の動きで言葉を理解する。カウ

「困ったら何でも相談して偶然、バーを訪ねたのがきっかけという。高坂は大学卒業後、上場企業に勤め、若くして管理職に抜てきされた。が、前年度比プラス成長の「必達目標」に苦しんだ。会計不祥事に関わった東芝社員の苦悩は、誰よりも分かる。「必要以上

話してもらえば口の動きで言葉を理解する。カウ

移住者の来歴は様々だ。リーマン・ショックで失業した。半農半Xの仕事を始めた。半農半Xの仕事を始めた。半農半Xの仕事を始めた。

「収入が減っても健康で文化的な暮らしはできる。壁にぶつかった人たちを勇気づけたい」と高坂はいう。現在、サラリーマンら13人が新たな幸せを探し「半農半X」に踏み出そうとしている。

必要な収入だけ

退職後、「自分がどんな暮らしをしたいのかを考え、それに必要な月収を計算した」。匝瑳で自給的な暮らしをすれば月20万円が済む。バーの売上高が60万円になれば、確保できる。現在、店は週休3日で目標を達成する。残り時間で妻と田舎暮らしを楽しむ高坂の生活は、後に続く移住者が増えた。

1月最後の週末。移住したばかりの夫婦をもてなす昼食会があった。ホストは地元農家。「地域の人々が移住者を歓迎し

武者小路実篤の「新しき村」、ベトナム反戦運動時の「コミュニティ」：「一つの時代も人々は理想郷を求める。が、匝瑳への移住者は地域と連帯し、節度を保って穏やかに暮らす。当地を離れ、別の夢に向かう人とも絆を保ち、応援する。

文 和歌山章彦
写真 玉井良幸